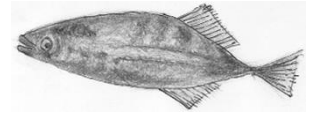


くまがや市民ネット準備会通信



生活クラブ運動の立ち上げ支援を受けています。

2023年3月20日発行 第9号

2/5「希望の給食」上映会と意見交換会報告

私たちは月に一回集って、それぞれの思いを確かめながら、子どもたちの未来のためにいま何ができるかを模索してきました。

切り口を「給食」にして学んでいるうち、千葉県いすみ市、長野県松川町、東京都武蔵野市、韓国ファソン市の事例を紹介するDVDに出会いまし



た。それぞれの自治体トップや農業従事者、お母さん達の笑顔。映画をいろんな人と観ることで、熊谷でも何か動き始められるのではと確信し、まず小さな会を持ちました。当日は市議会議員さん、留学して農業を学んできた人、有機農業に関わって起業している方など30名が参加し、意見交換も盛り上がりました。

国の根幹は農。その未来を志向し、子どもも地域も元気になる取組みのキーワードが給食なのだと感動を共有しました。新しい給食センターへの疑問など、一人ひとりが発信することで地域を変えていけるはず。ここからがスタートです。次の企画にはぜひご参加下さいね。(小川美穂子)

~~~~~♪アンケートから♪~~~~~

- ・給食、農業、環境、健康、有機農法とつながれて、市民でまきこんで変えたい、変えられると思いました。
- ・私の方向性が少し見えた会でした。早くこの状況をなんとかせねばですね。
- ・食材等はやはり良い物と思いました。色々な政策においてメリット・デメリットがある中で、やはり政策の見直しの時がやって来たのだと思います。政策を進める方の言い分も聞ける機会があればおもしろいと思いました。
- ・イメージ先行の宣伝映画だと嫌だなと心配しましたが、映画はとても具体的で立ち位置もフラットでよかった。給食はアメリカからの「トップダウン」で始まりましたが、利権や圧力で「ガンジガラメ」のトップ(政府や行政)まかせで変化はムツカシイと思います。変化できるとしたら市民からの「ボトムアップ」で市政をまき込むのが良いでしょう。これからの給食が「有機や自然や子供にやさしい給食」になるか? 「お金や大きな力が進めたい遺伝子改変食物を入れる給食」になるか? できれば「良い顔」であるよう願います。
- ・自分の食やイベントのノウハウをうまく仕組み化、組織化する一端を担えないか模索中です。
- ・私は今中3で9年間ずっと自校給食を食べてきたのですが、今日映画を観たりお話をきいたりして自校給食は残さなければいけないし広げなければいけないなどと思いました。
- ・総合的に上映されたものと御意見をまとめなければ言いつばなしになる。市の職員方にDVDを見てもらうかたちに持っていければ良い。小さいグループで行うよりも市に訴えかけると良い。
- ・共に色々とりくんで行きたいです。
- ・給食と農業、自校式給食への願いや課題を知り、考えることができました。参加できて本当に良かったです。市政をかえるために今は何をすべきか(急ぐこともあるでしょうが)一緒に考えていければと思います。
- ・いすみ市が差額を負担したことにより「いすみっこ」が実現したことは凄く良いモデルだと思った。
- ・有機農業のお米を給食にした地産地消と食育が地域の活性化につながる。
- ・当事者は子どもだけでなく、多くの人を巻き込む仕組みを作った韓国フードガバナンスからいろいろ学ぶべきだと思った。食の安全やそこから得られる作物をブランド化し商品化し、しっかり収益を上げ、それをまた食に投じるといったプラスの循環システムが組めれば事が進むと思った。行政は先行事例がないと動けないので、どんどんこういった事例を集めて打開できることを強く願う。

## 子どもたちを自校式給食で育てたい

熊谷市の学校給食は、現在、センター式:熊谷地域(小中学校 31 校分)、小規模センター式:江南地域(同 3 校分)、自校式:妻沼地域(同 8 校)と大里地域(同 3 校)と、地域によって方式が異なります。私たち「熊谷のこどもと食の未来をつむぐ会」は、熊谷市が新しく大きな給食センターを建設して、市内全校センター式に統合する計画をたてていると知ったことをきっかけに、子育て中のママとパパで活動を始め、「学校給食は自校式で！」と願って、署名活動に取り組んできました。

これまで2年半の取り組みの中で、お預かりした署名は 7001 筆、その内、熊谷市民 6462 筆となります。(2023 年 1 月末中間集計)これは、熊谷市民 30 人に 1 人に換算される数であり、その多くは、市内の保護者や子どもたちからの署名です。子ども会、子育て支援拠点・保育園・幼稚園、地域でママ友さんやお知り合いから 1 筆 1 筆集めてくださった方、自治会単位、そして生活クラブ、たくさんのご協力をいただいできました。さら

に、「希望の給食」上映会に参加させていただき、つながったご縁から、今、店頭に署名用紙を置いてくださる熊谷市内のショップさんが増えています。

上映会に参加し、改めて、「食」を通じて子どもたちと地域をより近づけることができたらという想いを強くしています。調理する人との距離、田畑とそれを耕す人との距離……。地域の未来を自分たちで創る、そしてその営みを子どもたちに伝えていく。そんな未来を目指していきたいです。まだまだ、熊谷市の計画も、私たちの署名活動も、知らない方が、たくさんいます。皆さま、どうぞご協力をお願いします。

(鈴木夕子/熊谷のこどもと食の未来をつむぐ会)

Email: kumanokogohan@gmail.com

note:



Facebook:



## << 変化を大きく感じる >>

身近な生活では

- \*物価高 …エネルギー(特に電気代)
  - …共同購入の消費材もじわじわ価格の値上がり、容量の減量消費材の優等生“たまご”!! 鳥インフルエンザの流行で親鳥の殺処分、全国の供給量は1/100 にとわれた。生活クラブでも供給不足となり現在も続いている。

消費材はどれだけの手間ひまをかけて私たちの手元に届けられるのか……

- 穀類……米、小麦(製品)、とうもろこしや大豆(種まきから収穫まで(6ヶ月以上))
- 野菜……キャベツ、じゃがいも、大根、人参(3ヶ月から6ヶ月以上)
  - プラス気象条件も大きく関わってくる
- 肉・卵・牛乳…穀物を餌としている。プラス飼育期間(長い)
- 調味料類……原材料とするものは穀物類がほとんど。

\*\*\*毎日当たり前のように食べられる食事ですが…\*\*\*  
これらのことを考える時、最近私 << 奇跡の食事 >>とよんでいる。  
調理から食事を終えるまであますところなく利用するように心掛けたい。  
今年冬季は“たまご”不足気味ですがちょっとの間がまんしよう!!  
私たちは生活クラブ共同購入で手元に消費材を届けて頂いている。  
“ありがたい、ありがたい”

私たちの生活をささえて下さる生産者のみなさまに感謝の気持ちでいっぱいです。(嶋田照子)